

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0475400818		
法人名	株式会社 ツクイ		
事業所名	袋原グループホームふれあいの家 きんもくせい棟		
所在地	宮城県仙台市太白区中田町字法地南4-1		
自己評価作成日	平成24年10月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/04/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0475400818-00&amp;PrefCd=04&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/04/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0475400818-00&amp;PrefCd=04&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人 介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台3階		
訪問調査日	平成24年11月20日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者の方々の心身の状態をしっかり把握し、必要としている事を丁寧に、安心して生活していただけるよう、お手伝いさせていただいています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

仙台市南東の住宅地の一角に位置し、袋原小学校・児童館や、和菓子屋・スーパーなどに隣接する。株式会社ツクイによる研修計画、マニュアルなどが充実している。協力医療機関は24時間対応であり、看護師が常勤していることは、利用者及び家族そして職員にとって心強い。近隣の社会福祉法人ビーンズ会と災害時の受け入れについて協力関係が明確化されている。3ユニットのため夜間体制が充実しており「夜間ケア加算(Ⅱ)」を取得している。事業所の理念『その人らしい生き方を尊重し、優しく思いやりを持ってお手伝いさせていただきます。』を実現するために、管理者は一番大切なのは「人」、「教育」と考えている。職員の聞き取りや、自己評価の「職員はほぼ全ての利用者の思いや願い、暮らしの意向を掴んでいる」という結果で教育が徹底されているということがうかがえる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果（事業所名 袋原グループホーム）「ユニット名 きんもくせい棟」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼で理念を読み上げスタッフ皆で共有し、実践につなげる様にしている。管理者からケアの方針が伝えられる	理念は、毎年職員全員で見直している。職員も管理者も常に『理念、その人らしい生き方を尊重し優しく、思いやりを持ってお手伝いさせていただきます。』をケアの判断基準としている。毎朝、唱和し意識づけしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り、行事に参加している。地域のボランティアの方々に訪問いただいている	町内会の総会・夏祭り、児童館の敬老会への参加、中学生の職場体験の受け入れなど地域との交流がある。地域ボランティアや、幼稚園児の訪問もある。近隣住民から差入れが届けられる関係が構築されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	週に1回、クリーン活動を行い、近隣のゴミ拾いを行っている。その際、小学生や近所の方々と関わっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の内容をスタッフ全員で共有し、サービス向上にいかしている	民生委員、地域包括職員、家族、職員で開催している。この間の議題は、認知症共用型通所介護事業の開始やペットの持ち込みなど、事業運営について具体的な話し合いがなされ、外部評価についても報告されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者との連絡をとり、相談助言をもらっている	グループホームにおける医療行為、生活保護、成年後見、認知症共用型通所介護事業の開始などについて仙台市の担当者に相談している。必要な報告もなされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を設置している。勉強会を行い、正しい理解と身体拘束をしないケアに取り組んでいる	契約書に利用者の権利「暴力や虐待及び身体的精神的拘束を受けない事」を明記する。研修を実施、やむを得ない身体拘束の判断をする委員会があるが開催されたことはない。外出傾向をつかみ寄り添うケアを、玄関は昼間施錠せずチャイムで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、虐待の種類、虐待につながる不適切なケアなどを理解し、防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご利用者に成年後見制度を利用している方が居る。活用を支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を掛けて十分な説明を行い、理解、納得を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で意見を聞いたり、面会の際に要望を聞いている	運営推進会議は家族全員に参加を呼び掛け、第三者委員を設置し、来所時に意見要望を聞くように心がけている。退職した職員を知らせて欲しいとの要望に、現体制の職員写真を掲載したお知らせを作成している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務連絡会やカンファレンスにおいて職員の意見や提案を聞き、反映させている。個人面談を行っている	管理者主催の業務連絡会を月1回開催、職員の意見を聞く機会となっている。必要に応じてエリア統括や本部長等が出席する。管理者は一定の権限を与えられているので、職員の意見を日々の運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	トレーニングや法人内外の研修の機会を確保している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し、研修や他事業所との交流の機会を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困っている事、不安な事など要望を把握し、安心していただけるように関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時にご家族が困っている事や不安に思っている事を聞いている。センター方式を使用して情報収集をしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人のこれまでの状況をよく知る家族などを交えて十分に話し合いを行い、必要な支援を見極め適切な判断を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事を一緒に行い、料理の味付けなど、ご利用者に教えてもらっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族への日常の様子を定期的具体的に伝え、意見交換や相談の機会を設け、協力しながらもにご本人を支えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人と外出したり、部屋で過ごしたり、ご家族と外食、お墓参りなどに行けるようにしている	馴染みの店の買い物、理美容、バッティングセンター等に職員が付き添って外出している。友人が訪ねて来たときにはくつろげるよう配慮し、投票に行く支援もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居心地よく過ごせるように相性を考慮に入れた座席にし、その時々状況に柔軟に対応して個々の満足を高められるよう努力している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されてもホームと連絡を取ったり相談、支援に応じている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者一人ひとりの思いや希望、意向を把握し、バッチングセンターへいたり、食べたいものを提供するようにしている	職員は担当している方の意向把握に努め、家族から情報収集、これらを整理して職員で共有する。利用者の要望は出来るだけ叶えるように努める。自立志向が強い利用者一人で外出したいという要望も支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を使用し、これまでの暮らし方の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	午前中にバイタル測定を行い一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態を把握している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	より良く暮らすための課題とケアのあり方について、皆で話し合い、意見を反映し、現状に即した計画をチームで作っている	介護計画は3ヶ月1度見直し、短期・長期の目標を立てて、必要に応じ見直す。利用者の視点に立った情報、家族、医師、看護師、職員の意見も反映される。来られない家族には文書で要望を聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を行い、スタッフで共有するために連絡ノートを用意している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調に応じて本人の希望する医療機関を利用したり、ピクニックに行き、外食をしたりして気分転換をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の集会所を活用してもらい、祭りなどを行っている。毎週地域の清掃活動を行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期往診をしてもらい、本人及び家族の意見ももらいながら支援につなげている。必要に応じて通院に付き添っている	かかりつけ医は、協力医療機関を基本としている。往診は2週間に1回ある。通院は職員が付き添い、受診結果は家族に伝えている。薬は、薬局から往診と連動し届けられる。看護師が常勤している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を常勤、非常勤で採用している。相談、病院への連絡など連携をとっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も面会に行き、病院側と情報交換をしながら早期退院へつなげている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期を迎えるにあたって、方向性をさだめ、本人、家族、医師と話し合っている。ターミナルケアにも積極的である	看取りの経験はある。ターミナルの判断は医師が行い、その時点で同意書をもらう。職員に看取り研修を行い、24時間対応の医師・看護師のアドバイスもあり、今はあまり不安の声も出されなくなった。利用者は手を合わせてお別れをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの整備と緊急連絡網で適切な対応が行えるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定して避難訓練をしている。	避難訓練は年2回、夜間を想定して行い問題点を明らかにしている。緊急通報、スプリンクラーは設置され、避難場所の小学校の門の鍵のナンバーは知らされている。非常食は3日分用意している。	避難訓練参加を地域の人に呼び掛けているが参加はあまりない。今後、地域の防火クラブ、消防団と連携をとり避難訓練を行うことを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活歴や職業歴を踏まえその方の誇りを傷つけないように声かけに注意している。プライバシーが保てるように声の大きさなどにも注意を払っている	本人尊重のケアを行うための教育を徹底することを心がけている。呼び方は、希望に添い、同性介護にも対応する。職員は、入室の際、利用者に許可を求め、穏やかにゆっくりと語りかけている様子が見られた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を確認してからケアを行うようにしている。誕生日会やピクニックなどの際に食べたいものを選んでもらっている。おやつや飲み物など、選べるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時間や買い物に行きたい時に同行できるように、柔軟な業務内容にするようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装で居られるようさりげなく声かけをしている。毎日お化粧をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	材料を切ったり料理が好きな方を中心に手伝ってもらおう。盛り付けをしてもらったり、その方に合わせたお手伝いをしてもらっている	業者の栄養士による献立の作成と食材の配達を委託している。調理に関わる利用者もいる。誕生日にはユニットごとに特別メニューが出され、おやつは利用者が買い物に行っている。職員一人がともに食事をする。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量や盛り付け、食べ易さなどに工夫をしている。炭酸、甘いものなど嗜好に合わせた飲み物を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医に連絡し、通院や健診をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	すぐにリハビリパンツや尿取りパットを使用するのではなく、一人ひとりの排泄パターンの把握から始めている	排泄状況を記録し排泄パターンを把握し、誘導するなど自立支援している。オムツは基本として使用しない。トイレ誘導でオムツがとれた例もある。夜間のみ、ポータブルトイレを利用している方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や果物など、また、散歩や体操など身体を動かしたりして予防している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入りたい時に入れるようにしている。ご利用者同士一緒に入ったりしている	2日に1回を基本としている。重度化しても介助2人体制で入浴することができる。風呂の湯は、一人ひとりではないが、随時交換し、入浴剤も楽しむ。入浴拒否の方には声がけなどの工夫対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠状態の把握に努め、変化や不調が見られるときは昼寝などにより調節をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用の表出に注意を払う。医師、薬剤師と連携をとっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味を楽しんでいただけるよう事前の準備を一緒に行い支援している。役割作りを心がけている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ、買物、外出、外食など希望に添った支援を行っている。ご家族にも参加してもらっている	近所に商店街があり、毎日出かけている方もいる。毎月1回は定義や外食に出掛けている。車いす対応車があるので、車いすになっても外出できるような支援体制がある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自由に買物ができるよう、見守りや付き添いをしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも使用できる。電話、手紙のやり取りを支援している。スタッフが取り次ぎしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝掃除を行い、その都度綺麗にしている。温度や光も季節に応じて心地よく生活できるようにしている	天井が高く、明るく、温度管理が行き届いている。3ユニットが横一列に並んでおり、避難移動がしやすい構造である。玄関と居間の境目がなく、ベランダに出でつるぐこともできる。トイレ等の表示もわかりやすく、日めくりや季節感が感じられる花が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置、ベランダのベンチ、和室など、ご利用者が使ったり、過ごせるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に家具や衣類など、本人が使っていたものを用意してもらい、心地よく生活が出来るよう工夫している	各部屋にエアコン・洗面台があり、収納スペースは広い。居室担当を決め、衣類の整理や、掃除の支援をしている。居室の入り口には名札がかけられ、家で使い慣れたものを置いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スタッフ間で情報を共有し、安全で自立した生活が送れるように支援している。毎日ヒヤリハットを記入する事により、安全に過ごせるよう、スタッフが意識している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0475400818		
法人名	株式会社 ツクイ		
事業所名	袋原グループホームふれあいの家 さくら棟		
所在地	宮城県仙台市太白区中田町字法地南4-1		
自己評価作成日	平成24年10月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/04/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0475400818-00&amp;PrefCd=04&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/04/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0475400818-00&amp;PrefCd=04&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人 介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台3階		
訪問調査日	平成24年11月20日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

入居者の方が望まれることを、出来るだけするようにしています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

仙台市南東の住宅地の一角に位置し、袋原小学校・児童館や、和菓子屋・スーパーなどに隣接する。株式会社ツクイによる研修計画、マニュアルなどが充実している。協力医療機関は24時間対応であり、看護師が常勤していることは、利用者及び家族そして職員にとって心強い。近隣の社会福祉法人ビーンナス会と災害時の受け入れについて協力関係が明確化されている。3ユニットのため夜間体制が充実しており「夜間ケア加算(Ⅱ)」を取得している。事業所の理念『その人らしい生活を尊重し、優しく思いやりを持ってお手伝いさせていただきます。』を実現するために、管理者は一番大切なのは「人」、「教育」と考えている。職員の聞き取りや、自己評価の「職員はほぼ全ての利用者の思いや願い、暮らしの意向を掴んでいる」という結果で教育が徹底されているということがうかがえる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果（事業所名 袋原グループホーム）「ユニット名 さくら棟」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼で理念を読み上げスタッフ皆で共有し、実践につなげる様にしている。管理者からケアの方針が伝えられる	理念は、毎年職員全員で見直している。職員も管理者も常に『理念、その人らしい生き方を尊重し優しく、思いやりを持ってお手伝いさせていただきます。』をケアの判断基準としている。毎朝、唱和し意識づけしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り、行事に参加している。地域のボランティアの方々に訪問いただいている	町内会の総会・夏祭り、児童館の敬老会への参加、中学生の職場体験の受け入れなど地域との交流がある。地域ボランティアや、幼稚園児の訪問もある。近隣住民から差入れが届けられる関係が構築されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	週に1回、クリーン活動を行い、近隣のゴミ拾いを行っている。その際、小学生や近所の方々と関わっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の内容をスタッフ全員で共有し、サービス向上にいかしている	民生委員、地域包括職員、家族、職員で開催している。この間の議題は、認知症共用型通所介護事業の開始やペットの持ち込みなど、事業運営について具体的な話し合いがなされ、外部評価についても報告されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者との連絡をとり、相談助言をもらっている	グループホームにおける医療行為、生活保護、成年後見、認知症共用型通所介護事業の開始などについて仙台市の担当者に相談している。必要な報告もなされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は開いており、庭に自由に出入れるようになっていて。利用者の行動を把握し、拘束しないケアを行うようにしている	契約書に利用者の権利「暴力や虐待及び身体的精神的拘束を受けない事」を明記する。研修を実施、やむを得ない身体拘束の判断をする委員会があるが開催されたことはない。外出傾向をつかみ寄り添うケアを、玄関は昼間施錠せずチャイムで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行い、スタッフそれぞれが声を掛け合い虐待が見逃される事がないよう、注意を払い、防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を行い、制度の理解と活用に努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際して、利用者や家族に十分な理解納得を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。ケアプラン更新時に要望を伺い運営に反映されている	運営推進会議は家族全員に参加を呼び掛け、第三者委員を設置し、来所時に意見要望を聞くように心がけている。退職した職員を知らせて欲しいとの要望に、現体制の職員写真を掲載したお知らせを作成している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務連絡会やカンファレンスにおいて職員の意見や提案を聞き、反映させている。個人面談を行っている	管理者主催の業務連絡会を月1回開催、職員の意見を聞く機会となっている。必要に応じてエリア統括や本部長等が出席する。管理者は一定の権限を与えられているので、職員の意見を日々の運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	トレーニングや法人内外の研修の機会を確保している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し、研修や他事業所との交流の機会を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困っている事、不安な事など要望を把握し、安心していただけるように関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時にご家族が困っている事や不安に思っている事を聞いている。センター方式を使用して情報収集をしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人のこれまでの状況をよく知る家族などを交えて十分に話し合いを行い、必要な支援を見極め適切な判断を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事を一緒に行い、料理の味付けなど、ご利用者に教えてもらっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族への日常の様子を定期的具体的に伝え、意見交換や相談の機会を設け、協力しながらもにご本人を支えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人と外出したり、部屋で過ごしたり、ご家族と外食、お墓参りなどに行けるようにしている	馴染みの店の買い物、理美容、バッティングセンター等に職員が付き添って外出している。友人が訪ねて来たときにはくつろげるよう配慮し、投票に行く支援もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居心地よく過ごせるように相性を考慮に入れた座席にし、その時々状況に柔軟に対応して個々の満足を高められるよう努力している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されてもホームと連絡を取ったり相談、支援に応じている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者一人ひとりの思いや希望、意向を把握し、買い物へ同行したり、食べたいものを提供するようにしている	職員は担当している方の意向把握に努め、家族から情報収集、これらを整理して職員で共有する。利用者の要望は出来るだけ叶えるように努める。自立志向が強い利用者一人で外出したいという要望も支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を使用し、これまでの暮らし方の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	午前中にバイタル測定を行い一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態を把握している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンスで話し合い、計画を作成している。必要時は早急にカンファレンスで話し合い、現状に即したケアを行うようにしている	介護計画は3ヶ月1度見直し、短期・長期の目標を立てて、必要に応じ見直す。利用者の視点に立った情報、家族、医師、看護師、職員の意見も反映される。来られない家族には文書で要望を聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を行い、スタッフで共有するために連絡ノートを用意している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調に応じて本人の希望する医療機関を利用したり、ピクニックに行き、外食をしたりして気分転換をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の集会所を活用してもらい、祭りなどを行っている。毎週地域の清掃活動を行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期往診をしてもらい、本人及び家族の意見ももらいながら支援につなげている。必要に応じて通院に付き添っている	かかりつけ医は、協力医療機関を基本としている。往診は2週間に1回ある。通院は職員が付き添い、受診結果は家族に伝えている。薬は、薬局から往診と連動し届けられる。看護師が常勤している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を常勤、非常勤で採用している。相談、病院への連絡など連携をとっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も面会に行き、病院側と情報交換をしながら早期退院へつなげている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期を迎えるにあたって、方向性をさだめ、本人、家族、医師と話し合っている。ターミナルケアにも積極的である	看取りの経験はある。ターミナルの判断は医師が行い、その時点で同意書をもらう。職員に看取り研修を行い、24時間対応の医師・看護師のアドバイスもあり、今はあまり不安の声も出されなくなった。利用者は手を合わせてお別れをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの整備と緊急連絡網で適切な対応が行えるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定して避難訓練をしている	避難訓練は年2回、夜間を想定して行い問題点を明らかにしている。緊急通報、スプリンクラーは設置され、避難場所の小学校の門の鍵のナンバーは知らされている。非常食は3日分用意している。	避難訓練参加を地域の人に呼び掛けているが参加はあまりない。今後、地域の防火クラブ、消防団と連携をとり避難訓練を行うことを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活歴や職業歴を踏まえその方の誇りを傷つけないように声かけに注意している。プライバシーが保てるように声の大きさなどにも注意を払っている	本人尊重のケアを行うための教育を徹底することを心がけている。呼び方は、希望に添い、同性介護にも対応する。職員は、入室の際、利用者に許可を求め、穏やかにゆっくりと語りかけている様子が見られた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を確認してからケアを行うようにしている。誕生日会やピクニックなどの際に食べたい物を選んでもらっている。おやつや飲み物など、選べるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時間や買い物に行きたい時に同行できるよう、柔軟な業務内容にするようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装で居られるようさりげなく声かけをしている。毎日お化粧をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	材料を切ったり料理が好きな方を中心に手伝ってもらう。盛り付けをしてもらったり、その方に合わせたお手伝いをしてもらっている	業者の栄養士による献立の作成と食材の配達を委託している。調理に関わる利用者もいる。誕生日にはユニットごとに特別メニューが出され、おやつは利用者が買い物に行っている。職員一人がともに食事をする。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量や盛り付け、食べ易さなどに工夫をしている。炭酸、甘いものなど嗜好に合わせた飲み物を提供している。味付けや調理方法など食べやすいように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医に連絡し、通院や健診をしている		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	すぐにリハビリパンツや尿取りパットを使用するのではなく、一人ひとりの排泄パターンの把握から始めている	排泄状況を記録し排泄パターンを把握し、誘導するなど自立支援している。オムツは基本として使用しない。トイレ誘導でオムツがとれた例もある。夜間のみ、ポータブルトイレを利用している方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や果物など、また、散歩や体操など身体を動かしたりして予防している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入りたい時に入れるようにしている。ご利用者同士一緒に入ったりしている	2日に1回を基本としている。重度化しても介助2人体制で入浴することができる。風呂の湯は、一人ひとりではないが、随時交換し、入浴剤も楽しむ。入浴拒否の方には声がけなどの工夫対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠状態の把握に努め、変化や不調が見られるときは昼寝などにより調節をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用の表出に注意を払う。医師、薬剤師と連携をとっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味を楽しんでいただけるよう事前の準備を一緒に行い支援している。役割作りを心がけている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ、買物、外出、外食など希望に添った支援を行っている。ご家族にも参加してもらっている	近所に商店街があり、毎日出かけている方もいる。毎月1回は定義や外食に出掛けている。車いす対応車があるので、車いすになっても外出できるような支援体制がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自由に買物ができるよう、見守りや付き添いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも使用できる。電話、手紙のやり取りを支援している。スタッフが取り次ぎしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝掃除を行い、その都度綺麗にしている。温度や光も季節に応じて心地よく生活できるようにしている	天井が高く、明るく、温度管理が行き届いている。3ユニットが横一列に並んでおり、避難移動がしやすい構造である。玄関と居間の境目がなく、ベランダに出でくつろぐこともできる。トイレ等の表示もわかりやすく、日めくりや季節感が感じられる花が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置、ベランダのベンチ、和室など、ご利用者が使ったり、過ごせるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に家具や衣類など、本人が使っていたものを用意してもらい、心地よく生活が出来るよう工夫している	各部屋にエアコン・洗面台があり、収納スペースは広い。居室担当を決め、衣類の整理や、掃除の支援をしている。居室の入り口には名札がかけられ、家で使い慣れたものを置いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スタッフ間で情報を共有し、安全で自立した生活が送れるように支援している		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0475400818		
法人名	株式会社 ツクイ		
事業所名	袋原グループホームふれあいの家 はなみずき棟		
所在地	宮城県仙台市太白区中田町字法地南4-1		
自己評価作成日	平成24年10月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/04/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0475400818-00&amp;PrefCd=04&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/04/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0475400818-00&amp;PrefCd=04&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人 介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台3階		
訪問調査日	平成24年11月20日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者の方々の心身の状態をしっかり把握し必要としている事を丁寧に、安心して生活していただけるよう、お手伝いさせていただいています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

仙台市南東の住宅地の一角に位置し、袋原小学校・児童館や、和菓子屋・スーパーなどに隣接する。株式会社ツクイによる研修計画、マニュアルなどが充実している。協力医療機関は24時間対応であり、看護師が常勤していることは、利用者及び家族そして職員にとって心強い。近隣の社会福祉法人ピーナス会と災害時の受け入れについて協力関係が明確化されている。3ユニットのため夜間体制が充実しており「夜間ケア加算(Ⅱ)」を取得している。事業所の理念『その人らしい生き方を尊重し、優しく思いやりを持ってお手伝いさせていただきます。』を実現するために、管理者は一番大切なのは「人」、「教育」と考えている。職員の聞き取りや、自己評価の「職員はほぼ全ての利用者の思いや願い、暮らしの意向を掴んでいる」という結果で教育が徹底されているということがうかがえる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果（事業所名 袋原グループホーム）「ユニット名 はなみずき棟」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼で理念を読み上げスタッフ皆で共有し、実践につなげる様にしている	理念は、毎年職員全員で見直している。職員も管理者も常に『理念、その人らしい生き方を尊重し優しく、思いやりを持ってお手伝いさせていただきます。』をケアの判断基準としている。毎朝、唱和し意識づけしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り、行事に参加している。地域のボランティアの方々に訪問いただいている	町内会の総会・夏祭り、児童館の敬老会への参加、中学生の職場体験の受け入れなど地域との交流がある。地域ボランティアや、幼稚園児の訪問もある。近隣住民から差入れが届けられる関係が構築されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	週に1回、クリーン活動を行い、近隣のゴミ拾いを行っている。その際、小学生や近所の方々と関わっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の内容をスタッフ全員で共有し、サービス向上にいかしている	民生委員、地域包括職員、家族、職員で開催している。この間の議題は、認知症共用型通所介護事業の開始やペットの持ち込みなど、事業運営について具体的な話し合いがなされ、外部評価についても報告されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者との連絡を取り、相談助言をもらっている	グループホームにおける医療行為、生活保護、成年後見、認知症共用型通所介護事業の開始などについて仙台市の担当者に相談している。必要な報告もなされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を行い、身体拘束をしないケアを行っている。玄関は開いており、庭に自由に出入りできるようになっている	契約書に利用者の権利「暴力や虐待及び身体的精神的拘束を受けない事」を明記する。研修を実施、やむを得ない身体拘束の判断をする委員会があるが開催されたことはない。外出傾向をつかみ寄り添うケアを、玄関は昼間施錠せずチャイムで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行い、スタッフそれぞれが声を掛け合い虐待が見逃される事がないよう、注意を払い、防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を行い、制度の理解と活用に努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際して、利用者や家族に十分な理解納得を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。ケアプラン更新時に要望を伺い運営に反映されている	運営推進会議は家族全員に参加を呼び掛け、第三者委員を設置し、来所時に意見要望を聞くように心がけている。退職した職員を知らせて欲しいとの要望に、現体制の職員写真を掲載したお知らせを作成している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務連絡会やカンファレンスにおいて職員の意見や提案を聞き、反映させている	管理者主催の業務連絡会を月1回開催、職員の意見を聞く機会となっている。必要に応じてエリア統括や本部長等が出席する。管理者は一定の権限を与えられているので、職員の意見を日々の運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	トレーニングや法人内外の研修の機会を確保している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の思いや暮らし方の要望、意向を把握し、納得と安心を得られるよう、関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が気がかりな点や求めている事をよく聴いて、信頼関係が築けるよう取り組んでいる		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人のこれまでの状況をよく知る家族などを交えて十分に話し合いを行い、必要な支援を見極め適切な判断行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人と職員が喜びや悲しみを共有し、互いに感謝し支えあう関係ができています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族への日常の様子を定期的具体的に伝え、意見交換や相談の機会を設け、協力しながらもご本人を支えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人の訪問や電話での対話があり、ご本人の意向に添えるよう交流の支援に取り組んでいる	馴染みの店の買い物、理美容、バッティングセンター等に職員が付き添って外出している。友人が訪ねて来たときにはくつろげるよう配慮し、投票に行く支援もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居心地よく過ごせるように相性を考慮に入れた座席にし、その時々状況に柔軟に対応して個々の満足を高められるよう努力している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されてもホームと連絡を取ったり相談、支援に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者一人ひとりの思いや希望、意向を把握し、ケアを行っている	職員は担当している方の意向把握に努め、家族から情報収集、これらを整理して職員で共有する。利用者の要望は出来るだけ叶えるように努める。自立志向が強い利用者一人で外出したいという要望も支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	スタッフ間で情報を共有し、一人ひとりの生活歴やなじみの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等をケース記録で把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	午前中にバイタル測定を行い一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態を把握している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンスで話し合い、計画を作成している。必要時は早急にカンファレンスで話し合い、現状に即したケアを行うようにしている	介護計画は3ヶ月1度見直し、短期・長期の目標を立てて、必要に応じ見直す。利用者の視点に立った情報、家族、医師、看護師、職員の意見も反映される。来られない家族には文書で要望を聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を行い、スタッフで共有するために連絡ノートを用意している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人のニーズに合わせて毎週買い物に行ったり、訪問マッサージを受けたり、柔軟の支援に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の集会所を活用してもらい、祭りなどを行っている。毎週地域の清掃活動を行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期往診をしてもらい、本人及び家族の意見ももらいながら支援につなげている	かかりつけ医は、協力医療機関を基本としている。往診は2週間に1回ある。通院は職員が付き添い、受診結果は家族に伝えている。薬は、薬局から往診と連動し届けられる。看護師が常勤している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を常勤、非常勤で採用している。相談、病院への連絡など連携をとっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も面会に行き、病院側と情報交換をしながら早期退院へつなげている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医と連携し、看取りケアを行っている	看取りの経験はある。ターミナルの判断は医師が行い、その時点で同意書をもらう。職員に看取り研修を行い、24時間対応の医師・看護師のアドバイスもあり、今はあまり不安の声も出されなくなった。利用者は手を合わせてお別れをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの整備と緊急連絡網で適切な対応を行えるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難所となる小学校が目の前にあるため、協力体制にある。避難訓練を行っている	避難訓練は年2回、夜間を想定して行い問題点を明らかにしている。緊急通報、スプリンクラーは設置され、避難場所の小学校の門の鍵のナンバーは知らされている。非常食は3日分用意している。	避難訓練参加を地域の人に呼び掛けているが参加はあまりない。今後、地域の防火クラブ、消防団と連携をとり避難訓練を行うことを期待する。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活歴や職業歴を踏まえその方の誇りを傷つけないように声かけに注意している。プライバシーが保てるように声の大きさなどにも注意を払っている	本人尊重のケアを行うための教育を徹底することを心がけている。呼び方は、希望に添い、同性介護にも対応する。職員は、入室の際、利用者に許可を求め、穏やかにゆっくりと語りかけている様子が見られた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を確認してからケアを行うようにしている。言葉を引き出せない方には表情から読み取ったり、声かけを多くして働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時間や買い物に行きたい時に同行できるよう、柔軟な業務内容にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな服を選んでもらったり、好みの情報を元に選び、美容室へお連れしたりしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを把握し、嫌いなものは代替品を提供している。季節のメニューに変更したり、食事会を企画したりして楽しんでいただいている。調理にも参加してもらっている	業者の栄養士による献立の作成と食材の配達を委託している。調理に関わる利用者もいる。誕生日にはユニットごとに特別メニューが出され、おやつは利用者が買い物に行っている。職員一人がともに食事をする。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量を記録してスタッフで把握している。状態に応じてゼリーなどを用意して提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力に応じた声かけや義歯の洗浄、うがいのお手伝い、口腔ケア用品を使用して一人ひとりに合わせたケアをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握、尿意便意の自覚を大切に排泄自立を支援している	排泄状況を記録し排泄パターンを把握し、誘導するなど自立支援している。オムツは基本として使用しない。トイレ誘導でオムツがとれた例もある。夜間のみ、ポータブルトイレを利用している方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の服用に頼るのではなく、自然排便が出来るよう支援している。便秘予防のケアを実践している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	身体の状態に合わせた介助をしている。自立されている方には、好きな時間に入れるよう支援している	2日に1回を基本としている。重度化しても介助2人体制で入浴することができる。風呂の湯は、一人ひとりではないが、随時交換し、入浴剤も楽しむ。入浴拒否の方には声がけなどの工夫対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠状態の把握に努め、変化や不調が見られるときは昼寝などにより調節をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用の表出に注意を払う。医師、薬剤師と連携をとっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味を楽しんでいただけるよう事前の準備を一緒に行い支援している。役割作りを心がけている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ、買物、外出、外食など希望に添った支援を行っている	近所に商店街があり、毎日出かけている方もいる。毎月1回は定義や外食に出掛けている。車いす対応車があるので、車いすになっても外出できるような支援体制がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自由に買物ができるよう、見守りや付き添いをしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも使用できる。電話、手紙のやり取りを支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝掃除を行い、その都度綺麗にしている。温度や光も季節に応じて心地よく生活できるようにしている	天井が高く、明るく、温度管理が行き届いている。3ユニットが横一列に並んでおり、避難移動がしやすい構造である。玄関と居間の境目がなく、ベランダに出てくつろぐこともできる。トイレ等の表示もわかりやすく、日めくりや季節感が感じられる花が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置、ベランダのベンチ、和室など、ご利用者が使ったり、過ごせるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に家具や衣類など、本人が使っていたものを用意してもらい、心地よく生活が出来るよう工夫している	各部屋にエアコン・洗面台があり、収納スペースは広い。居室担当を決め、衣類の整理や、掃除の支援をしている。居室の入り口には名札がかけられ、家で使い慣れたものを置いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スタッフ間で情報を共有し、安全で自立した生活が送れるように支援している		